



9月の園だより

令和5年9月1日

目黒区立八雲保育園 園長



～笑顔になる“食”の継続～

子どもたちと一緒に、この夏を元気に生長した夏野菜が収穫の終わりを迎えようとしています。「おはようございます。調理さん、これおいしい給食にしてください」とほぼ毎日のように、子どもたちが朝一番に採りたての野菜を調理室に届けています。玄関前の調理室の扉を開けると、温かい湯気とともにおいしそうな香りがして「いいにおい、今日は何かな」「今日の献立はね・・・」と調理員とのやりとりが楽しいひと時です。ある日の3歳児は色とりどりのパプリカを届けました。天気に悩まされてなかなか育たなかった時期もありましたが「どれくらい大きくなったかな」と毎日水やりをして、頑張って育てました。「いつ出てくるかな」「おやつに出てくるよ」「何味にしてもらおうか」「みそ、しょうゆ、しお」「楽しみだね、焼くのかなジューって」と子どもたちが大切に育てた野菜を、時にはリクエストに応じて子どもたちの目の前で調理もしてくれます。苦手な野菜でも栄養士や調理員の工夫で食べられるようになった食材も多いです。楽しみに給食を待つ日は、ワゴンの音が聞こえると自然と片付けの手も早まる子どもたち。「いただきます」と席に座る頃に、調理員が食べる様子を見に来てくれると「見てて、大きな口で食べられるよ」「これおいしい」とおかわりもしていました。日々の保育の中で、子どもたちの成長に欠かせない食育は、専門職員に支えられていることを改めて感じました。

10月から八雲保育園の給食調理は(株)シダックスへ委託となります。子どもたちが食に興味を持ちながら「食べることが好き」と自然と笑顔になる「安心安全な給食」を継続できるように、職員一同努めて参りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

9月の行事予定

引き渡し訓練
身体計測 避難訓練

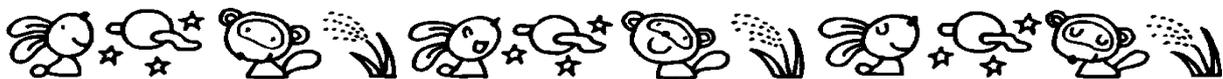
10月の行事予定

運動会(2歳～5歳)
芋ほり遠足(4歳、5歳)
身体計測 避難訓練

【災害伝言ダイヤル(171)のお知らせ】

毎月1日、15日の9時15分から21時まで伝言メッセージが視聴できます。

災害時に備えてぜひお試しください。



*****子どもたちの可愛いエピソード・つばやき*****

ゲリラ豪雨の後、窓から空を見あげて…
しろくま組(5歳児クラス)

A:「黒い雲と青い雲がお相撲してるみたい」
保:「どっちが強いのかなあ?」
B:「黒い雲はかっこいいから強いよ」
C:「青い雲に勝ってほしいな。だっておへそ取られないから」
黒い雲には雷様がいると思っているようです。

保育士が蝶を描いて色塗りをしている様子を見て
ぺんぎん組(3歳児クラス)

A:「先生、蝶の絵描いて」
保:「いいよ、何の蝶がいい?」
☆ (“ちょう”を考えているうちに何かが浮かんだ様子!?)
A:「白金町(しろがねちょう)がいい!」





夏の遊び・ふしぎ発見

～乳児クラス～

めだか組（0歳児クラス）

水の冷たさにびっくりして手を引っ込めていた子どもたちも、保育士と「つめたくて気持ちいいね」など笑顔でやり取りしながら楽しむことで、水の中に腕まで入れ感触を楽しんだり、自らパシャパシャと水面をたたき、顔や体にしぶきが跳ね返ることを喜ぶようになりました。また、おもちゃを使って楽しむ姿もありました。タライに浮いているボールやアヒルのおもちゃを、ひしゃくですくってバケツに移したり、穴の開いたペットボトルを水に沈めブクブクさせたあとで、ペットボトルを持ち上げるとシャワーのように水が流れる様子をじっと見て楽しんだりしていました。水遊びを通して子どもたちが感じた“楽しいな”“面白いな”という思いを、これからも安心できる保育士と一緒にたくさん経験していきたいと思います。



あひる組（1歳児クラス）

テーブル代わりにした白い発泡スチロールの上に絵の具を出すと、子どもたちは“なんだろう”と不思議そうに見つめています。保育士が手のひらに絵の具をつけ、紙にペタッと手形を押すと色が付くことが分かり子どもたちは“楽しそう”と思ったようです。すぐに保育士と同じように、手や指に絵の具をつけて遊び始めました。中には少しドキドキした様子の児もいます。絵の具に指先をちょんとつけて自分の指を眺め、絵の具がついていることを確認しています。「あれ、あおいろになっちゃったね」と保育士も一緒に驚くと、笑いながら絵の具のついた手を見せてくれました。子どもたちの“これはなんだろう”という気持ちや興味を持ったことに寄り添いその時の表情や言葉にしたことを汲み取りながら、一緒にやりとりしていくことをこれからも大切にしていきたいです。



らっこ組（2歳児クラス）

ある日、タライの水面に太陽が当たり、テラスの天井にキラキラと光が反射して映っているものを発見した子どもがいました。「あれは何」「ゆらゆらしてるよ」と言ってそこから目が離せません。側にいた友達も「ほんとだ、何だろうね」と不思議そうです。「あんなところに何かいる」と言うので、保育士も「何だろう、動いているね」と一緒に見ていました。すると、窓に貼ってある、水鉄砲の的あてにしていた“オバケ”の絵を見た児が「もしかしてオバケなんじゃない」と言うと「一緒に遊びたいのかな」と友達同士で話してしまいました。この年齢の子どもたちは色々なものを見て想像を膨らませたり、イメージしたりすることが大好きです。保育士も子どもが見つけた発見に耳を傾け、子どもたちの想像の世界と一緒に楽しんでいきたいと思います。

